

ルーフトップで 気軽にキャンプ

ジファー通信 Vol.1

本格的なキャンプシーズンの到来。今シーズンは新しいキャンプスタイルで行こう！ということで、編集部が実際にルーフテントを使ってレポートをするぞ



楽しみが広がっていく 屋根の上のテント

やっと春がきた。キャンプをするのにはいちばん気持ちいいシーズンである。「さあキャンプに行くぞー」ということで今回、編集部が選んだのがジファー・ジャパンのオートホーム・マジョリーナ。そのなかでも最もハードなシーンに耐えられる「マジョリーナ アドベンチャー」を装着した。「クルマの上にテント？」という人のために説明しよう。このクルマ上の箱、こんな薄くてもしっかりキャンプ用品（テント）なのである。装着は市販のルーフキャリアでOK！ 詳しい設営方法は下記で説明しているが、テントの屋根を付属のハンドルでグッと持ち上げると普通のテントとほぼ変わらない大きさに展開。いや、むしろ一般的なテ

ントを張る手間や時間を考えると、マジョリーナはオートキャンプシーンにとっても合理的といえる。本体はFRPでも軽く、しかも丈夫だ。クルマさえ停める場所があればどこでも就寝が可能なのだ。今まで窮屈な車内泊に悩まされたことはないだろうか？ 気軽にこのマジョリーナ・アドベンチャーに泊まれるということは、まさにオートキャンプの新しいスタイルなのである。

マジョリーナ・アドベンチャーにはカップルタイプ（大人2人寝可能/本体重量55kg、外寸130×200cm、収納時高30cm/展開時95cm）とファミリータイプ（大人2人+子供2人寝可能/本体重量70kg、外寸160×215cm、収納時高30cm/展開時95cm）が用意されている。

次回はオプションを使って、夏バケーションのマジョリーナを紹介する。



水平な場所にクルマを停めて、付属のアルミラダーで室内に入る。室内は95cmの高さがあるので圧迫感が全くない



マジョリーナをクルマに接続するには市販のキャリアを使用する



ルーフキャリアに全具で接続する。装着は大人2人で約5分ほど

ジファーの歴史



地中海に突き出したイタリア。1958年、この国にまったく新しい文化が誕生した。クルマの上で寝起きする「カールーフテント」という発想は、当時のアウトドアマンに好評を博す。以降、マジョリーナはルーフトップの代名詞となり、さまざまなシーンで活躍することとなる。ルーフトップの文化が日本に浸透しはじめたのはオートキャンプブームがはじまる1990年代。それまではルーフボックスはおろか、ルーフキャリアさえ知られていなかった。ブームを機にキャリアの輸入もはじまり、ジファーも紹介されはじめた。

簡単設営で思い立ったらいつでも どこでもキャンプができるテント

どんな悪天候でもクルマの上なら、いつでもキャンプが楽しめる。また、キャンプではなくても気軽に就寝できるのも魅力だ。設営はとても簡単。今までのテントの1/10の時間で設営できるぞ！

ビックリの展開サイズ

収納時高30cmが95cmに展開。見た目はさほど大きくないが、なかに入ると圧倒的な広さ。また、シュラフや毛布、その他の小物などを入れたままにして閉じることも可能で、収納スペースとしても活躍。ホワイト×ブルーのデザイン



屋根のテントに上ろう

マジョリーナ・アドベンチャーには専用アルミラダーが付属している。本体にしっかり接続してからハシゴの長さを決めてしっかりロック。少ししなるのは車体の揺れに対応するためだ



付属ハンドルで開閉

右後方の穴に付属のハンドルを差し込んでクルクルと回すと天井が上がる。このシステムは半永久的に機能し、メンテナンスも全く必要ないのだ

まずは3カ所のロックをはずす

マジョリーナには床側と天井側のシェルをしっかりロックするための全具がついている。開閉する前にまずステンレス製の全具のロックをはずそう。ロック箇所は前方2カ所、後方1カ所だ。1カ所でもロックされたままだと開閉はできないので注意

>>> 大人でもラクラク

マジョリーナ・アドベンチャーの入り口はクルマの右側。入り口は大人でも楽に出入りできる広さだ。靴はハシゴを上る前に脱いでもいいが、ビニールなどに入れて室内に置いてもいい。あらかじめ荷物などを先に入れてから人が入るのが理想的



2名寝てもまだまだ広い

室内は広すぎるくらいサイズでも快適だ。室内には大窓×2、小窓×2が付いている。また、全窓とも網戸が標準装備なのでこれからの季節もキャンプフィールドで大活躍する。夏が楽しみだ！